

地域ぐるみの防災活動

特に大きな災害が起こったときは、そこにいる地域住民がみんなて助け合う「**共助**」が不可欠です。日ごろから地域の人たちで構成する**自主防災組織に積極的に参加**して、いざというときに備えましょう。

平常時の活動

災害発生時の対応や被害の大きさは、日ごろからいかに地域住民が協力し合い、準備を行っていたかによって変わります。いざというときに組織の力を発揮できるよう、平常時にもみんなて連携し合いながら防災活動に取り組みましょう。

防災知識の普及

防災対策においては、まず住民一人ひとりが防災に関心を持ち、準備することが重要です。地域に防災知識を普及させるため、みんなが集まれる楽しいイベントなどを開催してみましょう。



防災資機材の整備

防災資機材は災害発生時に活躍します。地域の実情に応じて、必要な資機材を整備しましょう。また、日ごろからの点検や使い方の確認も忘れずにしましょう。



危険箇所の把握・防災点検

防災の基本は、自分の住む地域をよく知ることです。デジタルハザードマップ等を活用して地域内の危険箇所を把握し、防災上の問題点を洗い出しておきましょう。改善すべき点があれば、対策を立てて解決しましょう。



防災訓練の実施

防災訓練は、いざというときに的確な対応をとるために欠かせないものです。地域の人たちの参加を積極的に呼びかけ、地域一丸となって訓練を行いましょう。



災害時の活動

災害時には、多くのけが人や家屋の下敷きになる人がいたり、火災が発生したり、さまざまな事態が起こる危険性があります。自治体や公共機関と連絡を取り合いながら、**自主防災組織が共助の中心**となって活動しましょう。

初期消火活動

出火防止のための活動や、初期消火活動を行います。ただし、消防署や消防団が到着するまでの間、火災の拡大や延焼を防ぐことが基本です。けっして無理はしないようにしましょう。

避難誘導

住民を避難場所などの安全な場所に誘導します。**避難経路は災害の状況により変化します**ので、防災アプリの情報等、正確な情報に基づき誘導します。

救出活動

負傷者や倒壊した家屋などの下敷きになった人たちの救出・救助活動を行います。ただし、救出作業は危険を伴う場合がありますので、二次災害に十分注意してください。

医療救護活動

大災害時には大量の負傷者が出るため、すぐに医師による治療が受けられるとは限りません。その場合は応急手当を行い、救護所へ搬送しましょう。

情報の収集・伝達

防災アプリの情報等、災害に関する正しい情報を住民に伝達します。また、地域の被害状況や火災の発生状況を取りまとめます。

避難所の開設・運営

自主防災会が主体となって自治体に協力し、避難所の開設や運営をします。避難所施設の状況確認、避難者受け入れ、避難者の居住場所と業務の割り振りなどを行います。

あいち防災リーダー会 (APLA) 知多ブロック

あいち防災リーダー会は平成15年4月、愛知県防災安全局の支援を受け、あいち防災カレッジ修了者による防災リーダーのネットワーク化を図るために設立されました。

県内に6ブロック(海部、西尾張、東尾張、名古屋、三河、知多)あり、知多ブロックでは現在約100名の会員が愛知県防災安全局や各自治体と連携・協力し、知多半島内の各地で地域防災力向上に貢献するため防災・減災の啓発を行っています。また、会員のスキルアップを目的に研修も行ってまいります。あいち防災リーダー会の活動に関心がある方は、右記にお問い合わせください。



あいち防災リーダー会 (APLA) Facebook

<あいち防災リーダー会 (APLA) 知多ブロック事務局> Eメール: fmyk4265@wg7.so-net.ne.jp

避難行動要支援者を地域で支えましょう

災害時に大きな被害を受けやすいのは、安全に避難するために何らかの手助けが必要な「**避難行動要支援者**」です。こうした人たちを災害からどのようにして守るかを地域で話し合い、協力しながら支援していきましょう。



- 高齢者 (ひとり暮らし・高齢者のみの世帯など)
- 障がいのある人 (身体障がい者・知的障がい者など)
- 妊婦や乳幼児
- 難病患者や傷病者
- 外国人 など

安全な避難支援をする

耳が不自由な人には、身ぶりや筆談などで正しい情報を伝えましょう。目が不自由な人には、階段などの障害物を説明しながら進みましょう。



避難行動要支援者に特に気を配る

災害時にこそ、困っている人や避難行動要支援者に対し、温かい思いやりの心で接しましょう。



しっかり避難誘導する

ひとりの避難行動要支援者に対して複数の住民で支援するなど、地域で具体的な避難体制を決めておきましょう。



コミュニケーションをとる

災害時の支援活動をスムーズにするためには、避難行動要支援者とのコミュニケーションを日ごろから図っておくことが大切です。



避難行動要支援者の身になる

道路に障害物はないか、耳や目の不自由な人や外国人向けの警報や避難の伝達方法はあるかなど、避難行動要支援者に対応した環境づくりをしましょう。



防災訓練に参加する

避難行動要支援者と一緒に避難経路や避難場所を確認しましょう。また、避難時に避難行動要支援者がどのような支援が必要となるのかを知ることができます。



地域の「個別避難計画」に協力しましょう

避難に支援が必要な人が登録されている「**避難行動要支援者名簿**」をもとに、避難誘導などをより迅速かつ安全に行うために、「**個別避難計画**」の作成が進められています。これは避難行動要支援者名簿に、地域住民の協力のもとで次のような項目を追加したものです。

- 災害発生時に避難支援を行う人
- 避難支援を必要とする人の特徴
- 避難支援の方法や留意点
- 避難先や避難経路
- 要支援者が不在のときの緊急連絡先

地域のみみなで力を合わせて、支援をする人とされる人の信頼関係を築きましょう。